

分類	ご意見・質疑の概要	対応の方向性
計画・資料の構成について	<ul style="list-style-type: none"> ● 議論の<u>テーマを絞って欲しい</u>。 	議論頂きたい <u>テーマを記載</u> しました。 P 25、43
	<ul style="list-style-type: none"> ● どの地域でも当てはまるような文言が並んでいる。現時点の資料では<u>どこが篠路の特色になるのか見えにくく、今後は色をつけていく作業が必要</u>と思う。市有地の使い方は明確に書かれているが、本計画のきっかけは鉄道の高架化などもあると思うので、駅前の考え方も同じようにまとめてもらいたい。 	“篠路駅周辺地区”のまちづくりの特色として、鉄道高架などの社会基盤整備の進捗を踏まえた <u>段階的なエリア価値の向上</u> とエリアごとの配慮事項等を記載しました。 P 32～37
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区の範囲を明確にしたうえで、その<u>世帯数、男女別、年齢別人口、札幌平均との比較でどうなっているのか</u>を知りたい。現状と今後10年後の想定を数値化して考え方をもう一度話した方が、今後の会議は進むと思う。 	篠路地区の特性把握のための <u>人口データ等を整理</u> しました。 P 28～31、巻末参考資料
土地利用について	<ul style="list-style-type: none"> ● 別紙2（「これまでの議論の整理」）について、<u>事業者の意見も重要だと思うが、住民にとって住みよいといった時に何をもって住み良いとするのか</u>。 ● 配置例1、2でそれぞれ期待される効果、懸念事項がある。配置例1でも業種によって商圈が変わりどれだけ交流機能が向上するかはやってみないとわからない。配置例2は地域住民が直接利用する施設ではないが、施設利用者やスタッフの居住などのメリットはある。<u>まず皆さんの意見を聞きながら計画を作っていく、計画をベースに企業を選んでいく</u>ということで、企業誘致ありきではないということ。どこまで細かく踏み込んだ表現するか、その程度を検討する必要がある。 	自由参加形式で実施した <u>地域ワークショップ、地域アンケート、協議会・検討委員会にて頂いたご意見を踏まえた計画策定と計画に基づくまちづくりを進めること</u> によって、住民の皆様にとって住みよい街を目指してまいります。 P 13、32～41
	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>市有地の活用はタイミングが重要</u>だと思う。医療施設のニーズがあると記載があり、それにA・Cを活用すると、残るはBのみになると思う。まちづくりはある程度人を呼べる施設が重要で、職員住宅が配置されるのであれば、その後色々な部分に展開されると思う。配置例2の進め方が良いと思う。 ● 商業施設を誘致したいのであれば、無償貸与などの条件提示をしないと地価も上がる中で大規模な商業施設は来ないと思う。<u>容積率や建ぺい率の条件も緩和した誘致</u>が必要。 ● 今の篠路の人口だと、商業施設は採算が取れないという意見もあり、将来的に人口減少となる中で商業では経営が成り立たないと思う。医療・福祉系であれば、JRやバス利用者も増え、篠路駅前の活性化にも繋がると思う。駅前に道の駅や物産展のようなものを誘致すれば、賑わいの創出も実現できるのではないかと。 ● 商売には鉄道の乗降客ではなく車の通行量が大事である。 	立地を目指す機能に応じて、 <u>タイミングその他必要な配慮事項を踏まえた具体化手法を検討</u> します。 市有地の活用による地域ポテンシャル向上、社会基盤整備の効果を活かす段階的な整備によるまちづくりの機運の高まりに応じて、事業者の誘致を目指します。 建築制限の緩和については、都市計画の審議会への諮問が必要ですので、 <u>開発時の具体的な提案を基に検討</u> していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ● パークゴルフ場は利用者こそ多いが、運営・管理が大変という話を聞いている。<u>市有地Bを住民が利用できる広場などにできないか</u>。市内には住民の要望で、公園に舞台を設置した事例があると思う。篠路もそういったことができるのであればやって欲しい。 	市有地B街区については、 <u>パークゴルフ場の運営団体や地域の意向を踏まえて活用の可能性を検討</u> します。
社会実験について	<ul style="list-style-type: none"> ● 寒い中での社会実験となるが、一番使いにくいときに実験するという事は、今後日常的に使っていくという意味では、いろいろ試せていいのかもしれない。 ● 地域団体と連携した取組と説明があったが、例えば当日に企画を持ち込んでも試せる空間があるのか。 ● 人が集まる実験になるので、活動を通じて“私もこんなことをやってみたいな”というニーズが出てくると思う。これをきっかけに、委員や住民が柔軟に話せる機会の構築や、FacebookなどのSNSを活用しながら、活動の意見出しの場などを構築していければ、地域の人たちの関わり代が膨らむと思う。社会実験は、篠路の住民の皆さんがいいなと思える、人の動きが見える風景づくりを実験する場かと思うのでうまくやっていただきたい。 ● どの範囲に広報し、どこから来場したか、会場周辺との関係性などデータはどのようにとるのか。 ● 北部3地区の中心となる篠路として方向性に確信が持てるストーリーが描けると成功だと思う。他都市事例との比較も交えて、大きな計画に沿った取組として、分析できるよ。 	社会実験「シノロリビング」の検証結果は協議会資料参照 P 9

分類	ご意見・質疑の概要	対応の方向性
住民意見について	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>住民の意向</u>や今の地域の課題を抽出し、検討のベースとすべき。 ● <u>住民意見の発表、発言の機会を設定</u>すべき。 ● 住民アンケートとは何か。 	<p>まちづくり計画に策定においては、<u>住民ワークショップや地域アンケートによる住民意見の場を設けて進めてきたこと</u>をご理解ください。アンケートについてはH29年に篠路茨戸地区（1,300名）、H30年に北区北部3地区（2,000名）の住民を対象に無作為抽出により実施しました。</p> <p>現在は、これらの住民意見を検討のベースとして、地区の特性や都市計画、事業者意見等を重ね合わせた計画案を確認頂いている段階です。<u>協議会へ継続的に参加頂き、各回の議題・議論を積上げていくため、委員会形式とさせて頂いておりますが、傍聴者の皆様の声もアンケートによって伺ってまいります。</u></p>
交流機能について	<ul style="list-style-type: none"> ● 多目的広場、公園など<u>市民が集える場所</u>も必要。 ● <u>新しい流れの祭りごと</u>を作っていきたい。 ● <u>住民同士が支え合うソフト面を強化</u>すると、まちづくりにもっと関心をもってもらえると思う。 	<p>ご指摘とおりの市民が集える場所は重要と考えており、計画（案）において<u>多世代が集まり交流できる機能、オープンスペースなどの広場を機能像</u>としています。社会実験などを通じて「<u>場</u>」の使い方、ソフト面も含め活用方法を検討していきます。</p>
具体化方法について	<ul style="list-style-type: none"> ● 実現性の有無、<u>どう実現していくか具体的方法がわからない</u>。 ● 配置例のような施設が本当に実現するのか。 	<p>具体化な<u>展開方法</u>についてはP32～37参照</p>
エリアの考え方について	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>駅前エリアと東エリアを分けずに大きなエリアと考えた方がいいのでは</u>。 	<p>エリアの<u>特性に応じた役割を整理するため、分けて記載しておりますが、ご指摘のとおり大きなエリアで考えることが重要と考えています</u>。本計画では、<u>それぞれのまちづくりが繋がり、地区全体が拠点の役割を果たす篠路のまちづくり</u>を目指しております。</p>
地域活力向上について	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療施設と宿舎で<u>なぜ就労者や来街者が増加するのか</u>。 	<p>医療施設に<u>従事する就労者</u>や医薬品、医療機器、医療消耗器具等の<u>関連企業、通院者、見舞客、研修・セミナー開催等による来街者増</u>を見込んでいます。</p>